

令和6年度防災訓練計画書(案)

課名・対策名 健康支援課 医療救護対策

訓練日	11月24日(日)
-----	-----------

【令和6年度訓練の検討事項】 応急救護所会場の縮小(習志野第一中学校の体育館工事に伴い訓練実施が困難なため、二中・七中・保健会館の応急救護所3会場での実施) 【理由】 習志野第一中学校は、長寿命化改修工事により体育館(ピロティーを含む1・2階)が令和6年9月～12月は使用できず、避難所訓練は中止としている。 応急救護所訓練の会場代替として、新校舎のピロティでの実施を検討したが、当初会場と比べかなり狭い状況であり、かつ今回の訓練のために新たにレイアウトを検討する必要があるが生じる。工事終了後は今まで同様当初会場は使用できる状況となる。 そのため今回一時的に使用できない習志野第一中学校は訓練を実施しない方向で検討したい。

参加予定人数 (職員)		参加氏名	災害医療本部員・応急救護所要員(市職員)、 習志野市医師会、習志野市歯科医師会、習志野市薬剤師会、 習志野市アマチュア無線非常時通信連絡会の各会員、 市内災害拠点病院・救急告示病院(4か所)		訓練会場	災害医療本部(GF AB会議室) 災害拠点病院、救急告示病院4か所、 各応急救護所3か所(第二・七中、保健会館)
----------------	--	------	--	--	------	--

目的	各応急救護所における設置・運営訓練および災害医療本部、災害拠点病院・救急告示病院(4か所)、各応急救護所(3か所)間の情報伝達訓練(無線による画像伝送訓練・EMIS入力訓練)を実施し、各機関・各自の役割や課題の共有を図ることを目的とする。
----	---

到達目標	①応急救護所において、設営手順(場所・位置)や物品の扱い方(発電機・ライト・無線)、校内にあるAED等使用物品が役割に関係なく確認・設営できる。 ②START法による一次トリアージの理解が深まり、応急救護所で協力し合いながら、的確なトリアージができる。 また、応急救護所において、トリアージ症例を通じ、傷病者受け入れ後の一連の流れを確認する。 ③災害医療本部・病院はEMIS(広域災害・救急医療情報システム)の合同練習モードを使用し、実災害と同様の入力訓練を行い、迅速にEMIS入力・情報確認ができる。 ④災害医療本部・病院、応急救護所との情報伝達により、重傷者の搬送に至るまでの流れを確認する ⑤災害医療本部は病院・応急救護所からの情報を整理し、関係機関等への連絡・調整を行う。
------	---

訓練想定	令和6年11月24日(日)午前9時00分に習志野市直下を震源とするM7. 3の地震が発生し、習志野市では震度6強を観測
------	---

時間	災害対策本部 (事務局) タイム スケジュール		訓練 項目	訓練 担当	訓練内容	使用する資機材等 (物資含む)	
						名称	使用数
前日 までに				各自	災害時に備えて、市担当者及び関係団体が各自の配置先を把握し、必要物品の準備。		
8:30				市職員	健康支援課集合。事前申し合せ事項確認し、各救護所へ出発。		
9:00	地震発生		参集訓練	各自	習志野市直下を震源とするM7. 3の地震が発生し、習志野市では震度6強を観測。(各自1分間シェイクアウト)		
	9:10	参集			現地集合(9:10に参集完了するよう集合) (9:10)緊急メール登録者へ訓練メール送付		
9:10～ 10:10	情報収集・集計作業	地区対策支部・避難所との情報連絡連携	災害医療本部設置・ 応急救護所設置訓練	災害医療本部担当	・職員及び関係機関の参集状況を把握。 ・自動参集後、災害医療本部担当職員、担当スタッフとともに、直ちに災害医療本部設置準備。 ・健康支援課脇倉庫から必要物品を災害医療本部に運ぶ。 ・無線の設営を優先し、並行して各役割分担を決定。 ・災害医療本部設置。 ・応急救護所の設置状況、病院の被災状況を情報収集(無線・EMIS等)	無線機器 ホワイトボード どこでもシート 市内地図 ヘルメット 防災ベスト 医療本部消耗品ボックス	一式 4 1 2 人数分
				病院担当・ 災害医療本部担当	・EMIS訓練モードにて、各機関ごとのシナリオを基に被災状況をEMIS入力する。また画面にて他機関の被災状況や受け入れ状況の確認を行う	(災害医療本部) パソコン・ケーブル	2セット
				応急救護所担当	・職員及び関係機関の参集状況を確認。 ・自動参集後、各応急救護所担当職員・担当スタッフとともに、直ちに各応急救護所設置準備。 ・防災倉庫の鍵位置を全員で確認し、倉庫・保健室から必要物品を応急救護所に運ぶ。あわせて有事の際使用が想定される学校内のAED・担架の場所を確認。 ・停電のため発電機を起動し、バルーンライトを点灯。 ・無線の設営を優先し、並行して各役割分担を決定。 ・応急救護所を設置 ・参集状況や応急救護所の状況報告(ライフラインや周辺状況)を連絡シートを基に災害医療本部へ報告。 ・災害物品・医薬材料備蓄品の確認。	無線機器 発電機 カセットボンベ バルーンライト ホワイトボード 机、椅子 どこでもシート 救護所医薬品・消耗品 ボックス ヘルメット 防災ベスト	一式 4本 各種 人数分
10:10 ～ 12:00			傷病者受け入れ開始	・災害医療本部、災害拠点病院・救急告示病院(4か所)、各応急救護所(3か所)の合計8か所にて仮想のミッションを付与。 ①応急救護所では、トリアージ訓練及び傷病者に対する応急救護処置訓練を実施。 (一連の流れを確認の後、各応急救護所で机上トリアージ訓練を実施) ②無線を使用し、症例を通して、傷病者の受け入れや搬送依頼・準備、人員物品等の要求等を行う情報伝達訓練を行う。方法としては音声・画像伝送等、情報量や内容、その時の状況に応じて手段・伝達内容を検討。 ③4病院、災害医療本部で仮想ミッションに対応。 ・傷病者搬送手段の確保 ・発電機・医薬品・衛生材料の確保 ・医療スタッフ人員要望 ・受援者受け入れ(DMAT、医療チーム)	情報記録票 傷病者一覧 トリアージ搬送依頼リスト 災害時診療録		
			トリアージ訓練・無線訓練				
12:00 ～ 12:30	撤収作業				撤収作業 反省会 解散	反省会記録用紙	